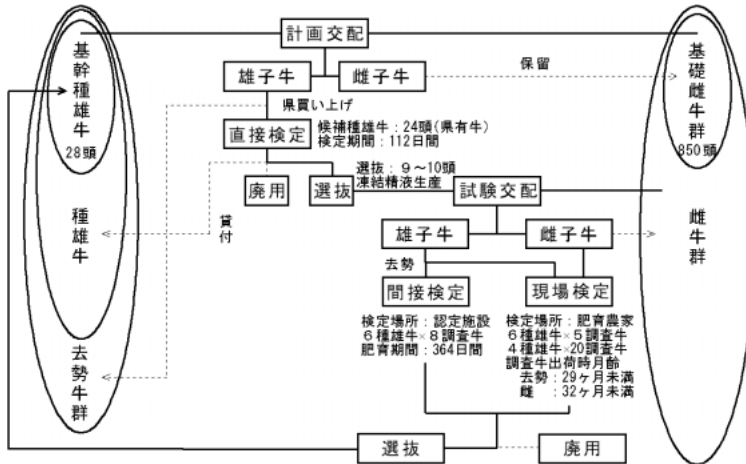


優良県有種雄牛「福利桜」「糸美德」の作出

平成7年度産肉能力検定（直接法）で選抜された候補種雄牛7頭について、平成10年度に同検定（間接法）を実施し遺伝的産肉能力を推定した。

その結果、2頭の候補種雄牛の検定成績が特に優れていたことから、基幹種雄牛と認定され、凍結精液の供給が開始された。



産肉能力検定の概要

基幹種雄牛と基礎雌牛との交配により種雄牛候補を生産し、直接法により候補牛の飼料効率や体型等を調査する。間接法は候補牛の去勢雄子牛8頭を肥育し、枝肉形質を調査して基幹種雄牛となる個体を選抜する。

間接法成績の概要

福利桜、糸美德とも日増体量は全国平均を下回ったものの、皮下脂肪厚及びロース芯面積で良好な値を示し、推定歩留は全国平均を上回った。

脂肪交雑の3.0及び3.1という成績は全国的にも優秀であった。

表1 「福利桜」及び「糸美德」の間接検定成績（単位：kg, cm², cm）

項目	福利桜(n=8)	糸美德(n=8)	全国平均(n=489)
日増体量	0.83±0.1	0.82±0.1	0.91±0.12
1kg増体TDN	6.72	6.83	-
冷と体重量	346±27.8	339±42.4	350±37.0
枝肉歩留	59.7±1.3	59.1±1.0	-
ロース芯面積	53±4.4	54±4.5	47±6.0
皮下脂肪の厚さ	1.8±0.5	2.0±0.5	2.0±0.6
脂肪交雑	3.0±0.6	3.1±0.9	2.6±0.9
推定歩留	74.6±1.1	74.8±0.8	73.5±1.1
格付	A5:4, A4:4	A5:4, A4:4	A5:47.0%, A4:33.1%



写真1 福利桜：調査牛 No.8 写真2 糸美德：調査牛 No.7

産肉能力の特徴

これら種雄牛における産肉能力の特徴は脂肪交雑が入り易い点であり、上物率（4等級以上割合）は2頭とも100%で、全国平均の80.1%を上回った。

一般肥育成績においても、良い結果が期待される。